

これは、遺された「一軒の家」をめぐる、ある家族の“命”の物語。

ドキュメンタリー映画

ただ会いたくて
風吹く浜で、きょうも――

東日本大震災から6年、いまだ届かぬ声がここに――

「忘れないで欲しいっていう気持ちは、ないんですよ。風化するのはいしょうがないことだと思ってる。でも忘れる前に、福島で起こったことは、まだ知られていない。福島の本物の現実を、ただわかって貰えたらって思っています。」

上野敬幸さん(福島県南相馬市萱浜地区在住)

チケット1人
事前予約 1,000円
当日券 1,300円

ドキュメンタリー映画「Life」先行上映イベント 2017年4月15日(土)

■時間: [開場]18時30分 [上映&トーク]18時45分~21時30分
上映&監督・ゲストによるトーク ゲスト: 木村紀夫さん(福島県大熊町)

■場所: シネマスコール(名古屋市中村区権町8-12 アートビル1F)

チケットのご予約は

■Eメール omoi.negau@gmail.com ■電話 080-9117-7118

監督・撮影・編集/寺井千晶(Rain field Production) 音楽/Steve Pottinger(KPB Studio)
タイトル題字/俊和憲 イメージ画/小原風子 企画・製作/「思い語りプロジェクト」
ドキュメンタリー映画「Life」公式Facebookページ <https://www.facebook.com/life.fukushima.tsunami/>          

追加上映決定! 4月17日(月)・18日(火)・19日(水)・20日(木)
■時間: [上映]18時20分~20時15分

シネマスコール (水色のビルが目印)	名鉄 オアシス ピク カメラ カマ	JR名古屋駅太閤通口・ピクカメラ南西角
シネマスコール	名鉄 オアシス ピク カメラ カマ	シネマスコール
052-452-6036	052-452-6036	052-452-6036

2011年3月11日午後3時40分
福島県沿岸に津波襲来。
 さらに、福島第一原発事故により
すべてが一変する。
見捨てられた命が、そこにはあった。



「本当に助けて欲しいって思った時には、
 来なかったねえ、誰も。」
 舞台は、福島第一原子力発電所の北22km。津波に見舞われた南相馬市萱浜(かいはま)地区。消防団員の上野敬幸さんは、自宅にいた両親と子ども2人を津波で流され、必死に家族を挟んでいた。その最中、福島第一原発が爆発。街から人の姿は消え、警察も自衛隊も来ない。捜索のため避難を拒んだ上野さんの目に映ったのは、津波で一帯が根こそぎ流された萱浜地区に、たった一軒造った我が家だった。



かつて家族6人が暮らした我が家には、幸せだった過去と受け入れ難い現実が交錯する。やがて、失われた命の「記憶」と、新しく産まれた命が出会い、共に歩む日々が始まった。上野さんの3歳の長男は、行方不明者のまま。仲間と捜索を続けるうち、放射能汚染で「帰還困難区域」となった大熊町へと向かう。そこには、原発事故のせいで捜索の機会すら奪われた家族がいた。



「福島の津波は、決して過去のものではない。」
 津波で家族を亡くした人たちの、震災後の5年を追ったこのドキュメンタリーは、いまでも続く、福島第一原発事故による被災の「知られざる一面」を描くものである。そして、「復興」の大きな波に抗い続けた主人公の上野さんが最後に下した、苦渋の決断とは一。



ドキュメンタリー映画「Life」制作によせて

津波で家族を亡くした福島の子供達との出会いは、私にとって衝撃的なものでした。これほどまでに、命が置き去りにされた出来事を、世間はまだ知らない。福島の被災といえば、誰もが「放射能」を思い浮かべます。そんな福島でも、1,800人余りが津波の犠牲になりました。なのに、あの震災が地震・津波・原発事故の「複合災害」だったという視点が、欠落しているように思えてならないのです。この映画を見て感じて欲しいのは、みなさん一人一人の命のこと、家族のこと。それは、撮影に協力して下さった津波被災当事者の皆さんが心から願っていることなのです。



監督プロフィール
 かさいちあき
笠井千晶
 映像ディレクター
 フリージャーナリスト



放送局報道記者など15年の経験を経てフリーに。2010年に、石橋洋山記念早稲田ジャーナリズム大賞奨励賞などを受賞。震災後、被災した東北での撮影と映像制作、個人上映会の開催を続ける。東日本大震災を映像で伝える「想い願うプロジェクト」主催。

想い願うプロジェクトFacebookページ
<https://www.facebook.com/omoi.nageau.prj/>